

「どうなる？ 日本の医療の姿—これからの医療提供体制、 新専門医制度がつくる医師制度」

■パネリスト

三浦 清春氏（保団連政策担当副会長）

草場 鉄周氏（日本プライマリ・ケア連合学会副理事長、専門医制度推進委員会委員長）

羽鳥 裕氏（日本医師会常任理事、社保審医療部会「専門医養成のあり方に関する専門委員会」委員、日本専門医機構理事）

伯野 春彦氏（厚生労働省医政局地域医療計画課医師確保等地域医療対策室長、在宅医療推進室長兼任）

■司会・コーディネーター：近藤 克則氏（千葉大学教授）

「新専門医制度」は、2017年度開始を目標にこれまで制度構築の議論が進められてきた。しかしながら、専攻医の給与労働条件・身分保障、既存医師と新制度の関わり、基幹病院となる大学病院・大病院、都市部への医師集中など、医師と地域医療への影響という点での懸念が払拭できず、日本医師会をはじめとした医療団体から原点に立ち戻って検討をすべきという要望が出されるに至った。

しかし、一方新たな問題として、専門科偏在、地域偏在への対応策としての医師の適正配置と数の管理という問題が提起されはじめている。保険医定数制、自由開業の規制、総合診療医の地域への配置などがそれである。こういった問題を含めたこれからの医療提供体制、医師制度に焦点を当てようと今回のシンポジウムでは各専門家をお招きした。